国際熱帯木材機関（ITTO）創立25周年記念シンポジウム「熱帯林の未来のために」

会場の様子

今年は、ITTOが設置されてから25周年を迎える記念の年です。また、国連が定める国際森林年でもあります。これを記念して10月28日(金)、はまぎんホール（横浜市西区みなとみらい）において、「熱帯林の未来のために」と題するシンポジウムが開催されました（主催：ITTO、共催：農林水産省、後援：外務省、横浜市、協賛：国際森林年国内委員会事務局、国連森林フォーラム（UNFF））。

2部構成の午前の記念式典では、ゼメカITTO事務局長、林文子横浜市長、加藤敏幸外務大臣政務官等の挨拶に続き、C・W・ニコル氏が基調講演。氏が経営する長野県の森林を紹介し、森林保全の必要性や生物多様性保全などの森林が持つ多面的機能の重要性をわかりやすく訴えました。

午後の部の記念シンポジウムでは、冒頭、森本哲生農林水産大臣政務官が、国際森林年である今年とリオ＋20が開催される来年が熱帯林にとって節目の年になり、我が国としても森林保全等にしっかりと取り組んでいく旨の挨拶を行いました。続いて、皆川芳嗣林野庁長官が、「我が国の持続可能な森林経営に向けた取組み」をテーマに、世界と日本の森林の現状、国際森林年における我が国の取組み、東日本大震災における森林・林業への被害やその復旧・復興への取組み、我が国の海外林業協力等に関する発表を行い、我が国が今後とも国内外の持続可能な森林経営の達成に向け努力していくことをアピールしました。

また、記念シンポジウムでは、元JICA参与で95歳になる現在

でも森林・林業の分野で幅広く活動されている神足勝浩氏が、ITTO設立前の国際的な議論と神足氏自身の熱帯林への関心等述べました。歴代事務局長のフリーザイラー氏（マレーシア・初代）及びソブラル氏（ブラジル・第二代）の2氏から、在任中のエピソードも紹介されました。

現在ITTOの活動は、①気候変動及び生物多様性保全、②林産業及び③マーケットの3分野に精力を注いでいます。当日は、ITTO職員から、気候変動の分野では最近話題になっているREDD+でのパイロットプロジェクトが活発に行われていること、生物多様性保全の分野では、特に管理がおろそかになりがちな国境付近における生物多様性保全のプロジェクトが平和構築にも成果をあげていることが発表されました。

最後に、ゼメカITTO事務局長から、50周年についても横浜市でお祝いができるよう、今後とも活動を継続させていきたい旨発言がされ、閉幕しました。

本シンポジウムには国際協力関係者、各国の大使館関係者、森林・林業関係者などの200名以上の参加があり、熱帯林に対する関心の高さやITTOに対する期待の高さがうかがえるシンポジウムとなりました。

ゼメカ ITTO 事務局長

C.W. ニコル氏

森本農林水産大臣政務官

皆川林野庁長官

会場の様子

国際熱帯木材機関（ITTO）とは・・・

ITTO は、持続可能な熱帯林経営の推進や熱帯木材の貿易の促進等を目的に活動しており、熱帯林を専門分野に活動する唯一の国際機関です。また、本部を横浜市に設置し、国連大学等とともに我が国に本部を設置する数少ない国際機関の一つです。

世界有数の木材輸入国となっている我が国は、世界の持続可能な森林経営の達成に貢献するため、早くから様々な国際協力を行っていますが、国際協力機構（JICA）による支援だけでなく、ITTO のような国際機関を通じた熱帯林に関する支援も行っています。